

©創通エージェンシー・サンライズ



MG 1/100 HYAKKU-SHI
+ BATTLE SUIT
A.E.U.G. ATTACK MODE

BANDAI 2005 MADE IN JAPAN

パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なる場合がございます。

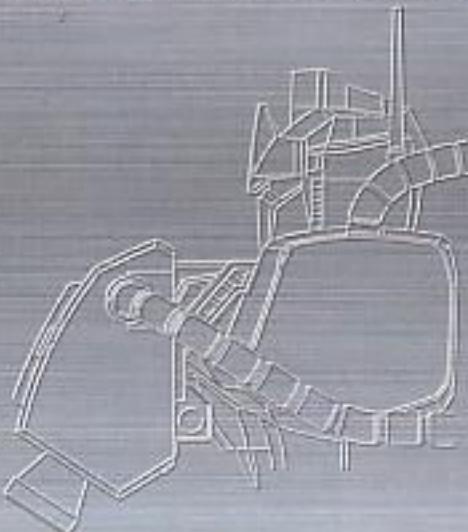
BANDAI



MOBILE SUIT
MSN-00100

HYAKU-SHIKI +BALLUTE SYSTEM

A.E.U.G. ATTACK USE
PROTOTYPE MOBILE SUIT



BANDAI 2005 MADE IN JAPAN

反地球連邦政府組織（エゥーゴ）
攻撃型モビルスーツ
MSN-00100「百式+バリュートシステム」
1/100スケール
マスターグレードモデル

Scanned by Delong.net

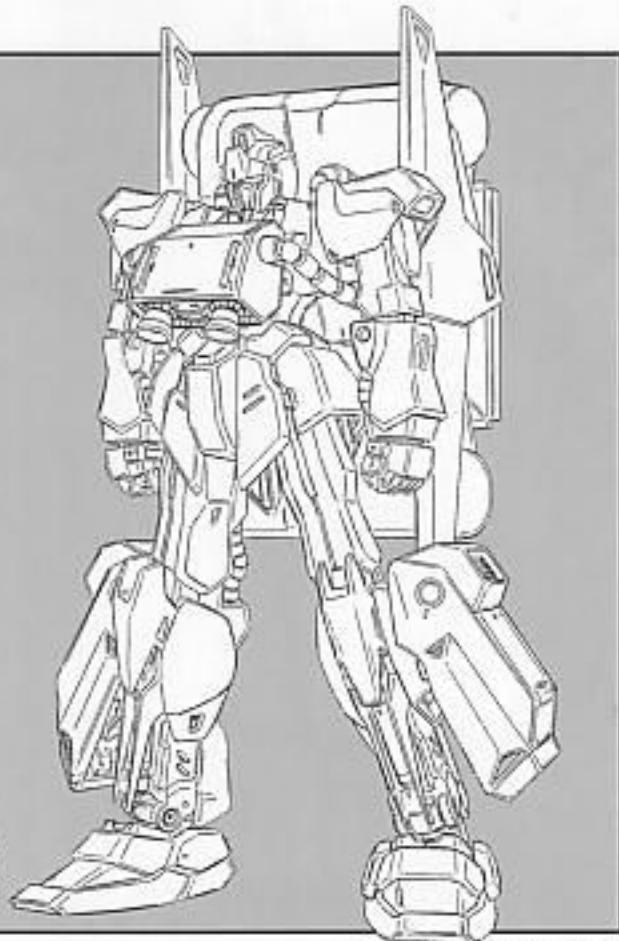
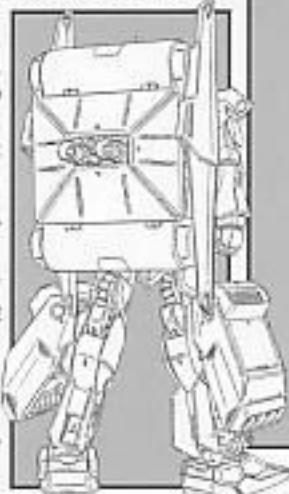
0134112



MSN-00100 HYAKU-SHIKI + BALLUTE SYSTEM

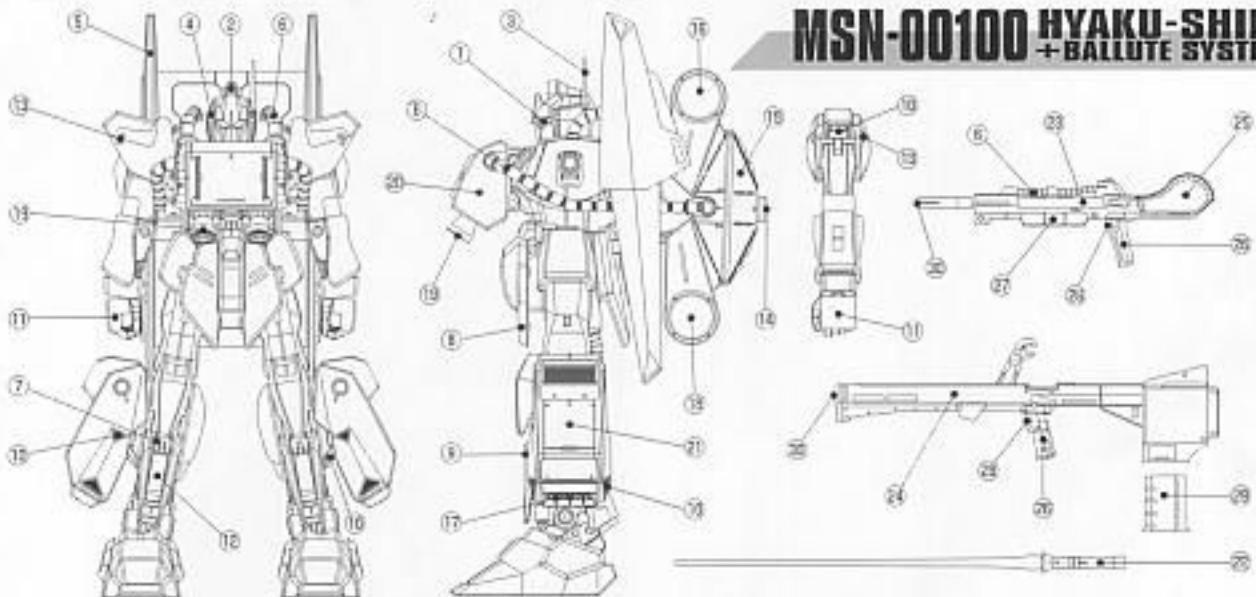
「百式」は、エゥーゴとアナハイム・エレクトロニクス社が推進する「Zプロジェクト」によって開発された攻撃型MSである。当初はTMS(Transformable Mobile Suit=可変MS)として開発されていたが、変形機構に欠陥が発覚。急速、非変形機として仕様が変更され、当時の標準的な履座機とは一線を画す高性能機として完成した。脚部の独立式デュアルフロートアーマーや背部のフレキシブル・バインダーなどは可変機としての名残であると言われており、後に、バリエーション機も開発されている。百式の開発図体となったのは、リック・ディアス以降の開発計画における近接戦闘・格闘用MSの基礎フレームで、それにRX-178 ガンダムMk-IIの奪取によって入手したムーバブル・フレームのコンセプトが導入された。また、可変構造の皮膚に伴って、研究中の各種装備の運用試験などへの投入が決定したため、そのアビオニクスは複雑化しており、基本的にワンオフの機体となっている。特に背面のフレキシブル・バーニアバインダーは、空力的に優秀であったため、重力下における空中戦などにおいても有効に機能したと見られている。百式が実戦に投入されたのは、グリフス戦役が本格化した時期であり、不足しがちなエゥーゴの戦力が整いつつある時期でもあった。Zプロジェクトによる主力機「Z(ゼータ)ガンダム」は未だ開発中だったが、百式はその計画のスピンドルともいえる機体であり、投入からジャブロー攻防戦を経て、グリフス2攻防戦に至るまで、グリフス戦役のほぼ全期間にわたり、エゥーゴのMS部隊における主力の一角を担っていたのである。

「バリュートシステム」とは耐熱/燃焼性繊維でできたボウル状のバルーンと、バラシットおよび増設バーニアスラスター、地上移動用ホバーなどを含むMS用の大気圧突入用特殊装備。主な特徴は、HLVなどと比べ直列にロードコストなことであり、大気上層において活動する場合など、携行が義務づけられているケースもある。任務によっては、いわゆる「救命ボート」的に認識されておりいる。



Conceptual Illustration: BEE-CRAFT

MSN-00100 HYAKU-SHIKI + BALLUTE SYSTEM



- | | | | | |
|-------------|------------------|---------------|-------------|------------|
| ①メインカメラ | ⑦SASシリンダーユニット | ⑫マイクロスラスター | ㉔減速用バーニア | ㉖エネルギー・パック |
| ②サブカメラ | ⑧フロントフロートアーマー | ⑬デフレクターノズル | ㉕胸部バーニアユニット | ㉗グリップ |
| ③マルチロッドアンテナ | ⑨プロテクションフロートフレーム | ㉖バリュート・パック | ㉙脚部バーニアユニット | ㉘ストック |
| ④60mmバルカン | ⑩サブスラスター | ㉗バラシット・トラック | ㉚ビーム・サーベル | ㉛トリガー |
| ⑤バーニアバインダー | ㉑マニピュレーター | ㉘地上用ホバーノズル | ㉜ビーム・ライフル | ㉝マガジン |
| ㉓パワーサプライヤー | ㉒アクチュエーターシリンダー | ㉙サブ・プロペラントタンク | ㉞クレイ・バズーカ | ㉟マズル |

注) MSN-00100 百式は、U.C.0087年3月下旬にアーガマに配備された。この機体は同年5月11日、エゥーゴ艦隊がジャブロー基地攻撃のため、大規模な地球降下作戦を実行した際にバリュートシステムを装着した状態のものである。

△注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。(他の商品がありますので、安全上15才未満には適しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

組み立てる時の注意

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクスは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。



組み立てる前の確認



・シールの番号



・カット穴の位置



・反対側に取り付ける



・両側に同じパーツを取り付ける



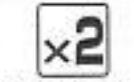
・向きに注意して取り付ける



・組み立てる際の注意



・切り取るところ



・部品を複数枚同時に作ります



・先に組み立てます



・後に組み立てます



・部品を回転させて取り付けます



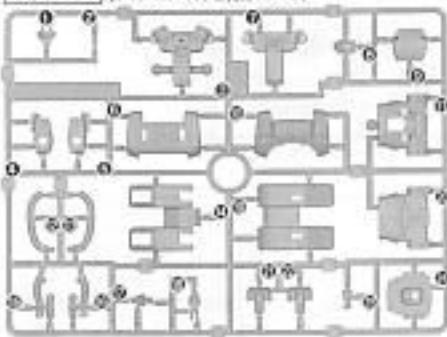
・どちらかを選んで取り付ける



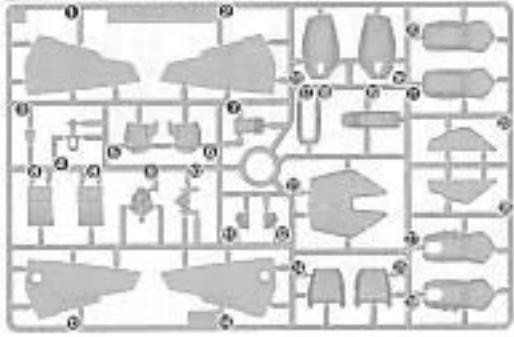
・組み立てる際の注意

パーツリスト

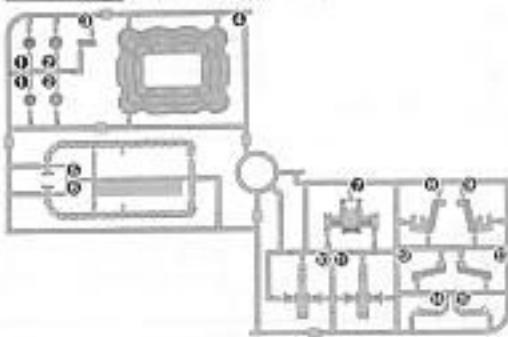
AJバーツ (スチロール樹脂: PS)



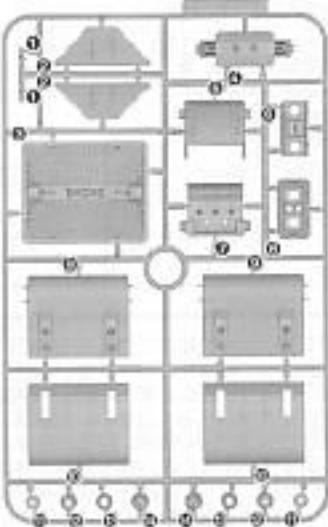
BJバーツ (スチロール樹脂: PS)



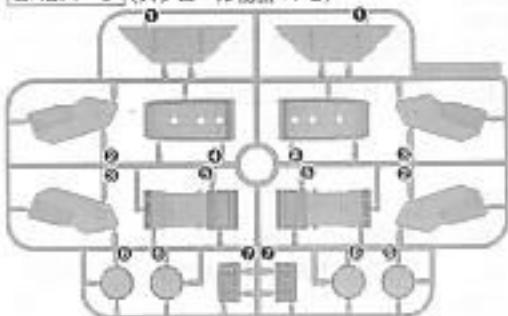
BA1バーツ (スチロール樹脂: PS)



BA2バーツ (スチロール樹脂: PS)

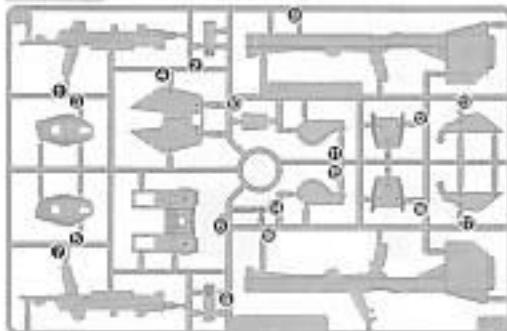


BA3バーツ (スチロール樹脂: PS)

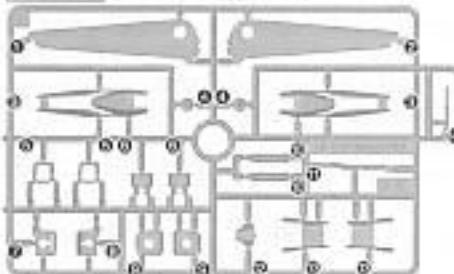
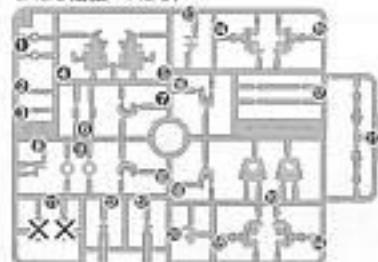
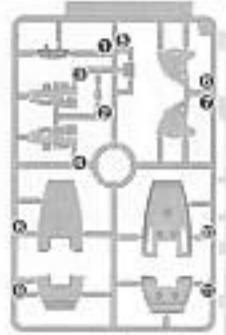
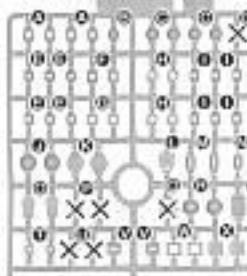


(X印は使わない) パーツです。)

C/パーツ (スチロール樹脂: PS)



ロ/パーツ (スチロール樹脂: PS)

E/パーツ
(ABS樹脂: ABS)F/(-) パーツ (x 2)
(スチロール樹脂: PS)G/(-) パーツ (x 2)
(スチロール樹脂: PS)H/パーツ (x 2)
(スチロール樹脂: PS)<PC-122>
(ポリエチレン: PE)

SB1/パーツ (スチロール樹脂: PS)

カラーシール.....1枚
マーキングシール.....1枚
ガンダムテカール.....1枚

《お買い上げのお客様へ》 部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書(裏面に必ず、お客様の名前、年齢、ご住所を明記してください。)にて下記までお申し込みください。代金は、料金表通りです。為替証書は用記入(白紙)で封緘してください。なお、部品の形状・重量で船積料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超過する時は不足分を請求、表記額以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。ご記入頂いた個人情報は、商品・部品の発送業務以外には使用いたしません。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター

〒424-8735 静岡県静岡市清水区西久保305 TEL0543-65-5315

《料金表》 ●部品代は切り取った1個の料金です。

部品番号	取扱説明書	テカール類	その他の部品
部品代	150円	各40円	各40円
郵送料	200円	80円	120円

For Japanese use only.

部品注文カード

0134112-4000

1/100SCALE MGシリーズ
MSN-00100 百式 + バリュートシステム

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由(○で囲む)(こわしたなくした)

・日中ご連絡可能な電話番号・年齢

(- - -) (- -) (- -) (- -) (- -) (- -)

'05.09

※コピー使用可

組み立て前の基本説明

必要な道具

〈ニッパー(プラスチック用)〉
・パーツをランナーから切り離してゲートを取るのに使います。

〈ピンセット〉
・小さい部品を取り付けたりシールを貼るのに便利。

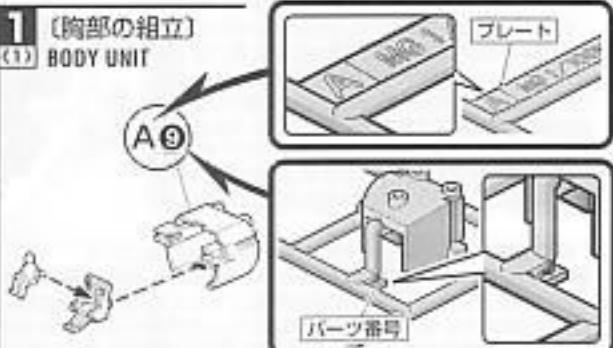


*この商品に道具類は入っていませんので、別にご用意ください。

説明書の見かた。

説明書のパーツに書いてある番号と同じものをランナーから探ししましょう。(パーツリスト表と合わせて見ると、探しやすいでしょう。)

1 (胸部の組立) (1) BODY UNIT

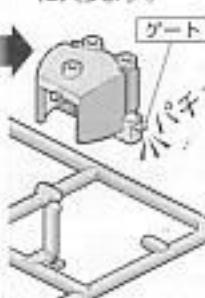


パーツの切り取りかた。

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。



②パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。



③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がりります。



ガンダムデカールの貼りかた。

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

保護シート



②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

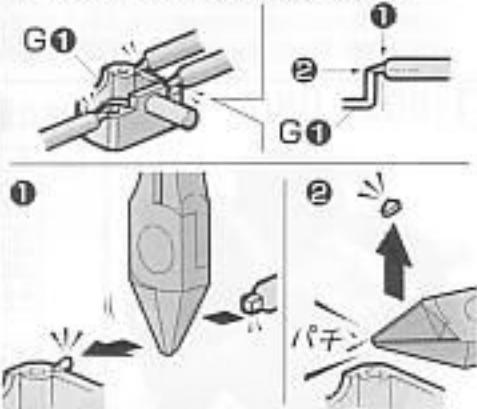


③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

*デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

アンダーゲートの切り取り方

①ロ・G・パーツは下の図の様に切り取ります。



説明書をよく読んで完成させましょう。

3 ビーム・ライフル (BEAM RIFLE)



頭 部
[HEAD UNIT]

2

バリュートシステム (BALLUTE SYSTEM)

19~21

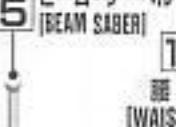
胸 部
[BODY UNIT]

1

4 クレイ・ bazooka (CLAY BAZOOKA)



5 ビーム・サーベル (BEAM SABER)

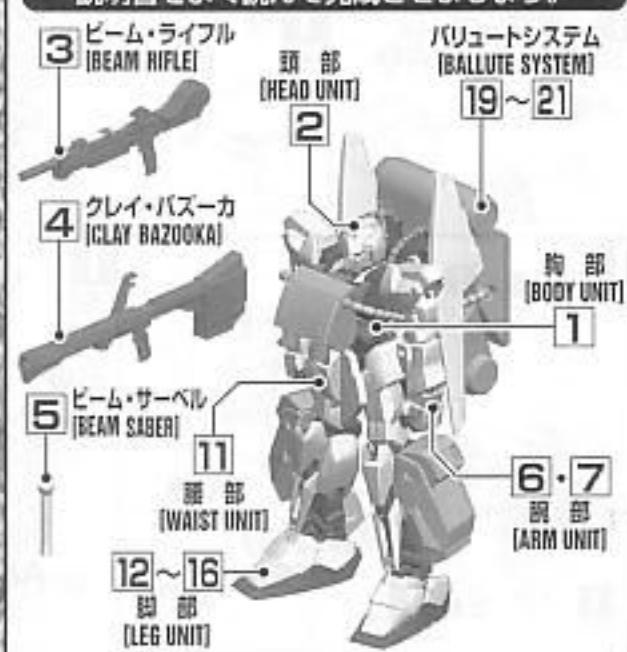


11 腰 部 (WAIST UNIT)

12~16

12~16 脚 部 (LEG UNIT)

6・7 腕 部 (ARM UNIT)



HEAD UNIT & BODY UNIT

(頭部) (胸部)

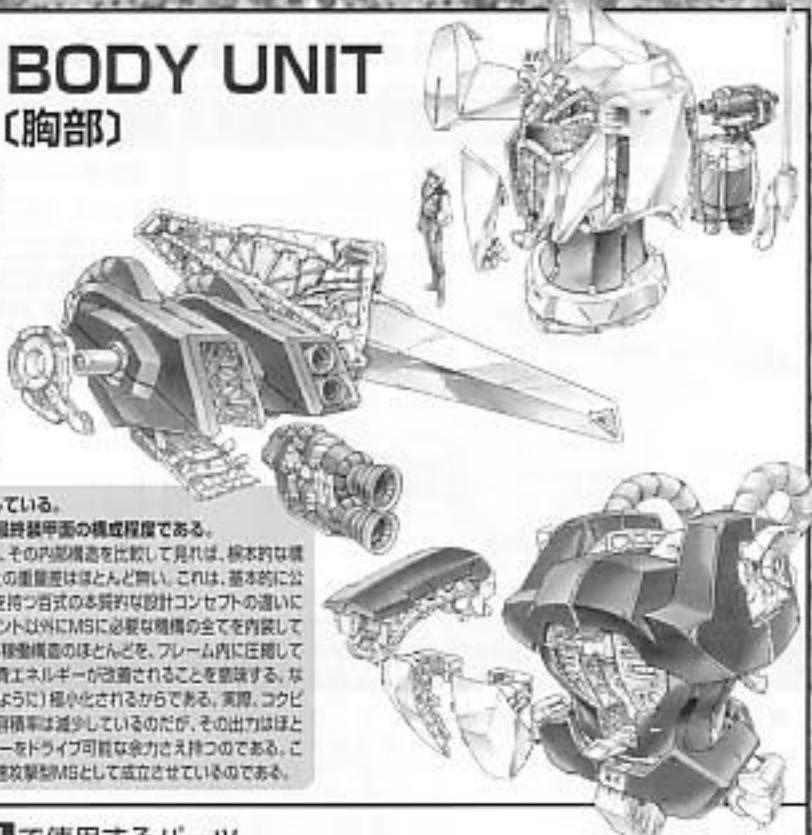
百式のヘッドユニットは、Zプロジェクト進行中に開発されたため、Zガンダムの設計に多大な影響を与えている。Zガンダム自体、プロトタイプには複数のヘッドモジュールの構造があったのだが、いわゆる“Z系”的意匠は、事実上百式を原型としていると言える。

百式のヘッドモジュールは、ガンダム系のシルエットを持ちながら、走査鏡などには独自のデバイスが装備されている。特に「目」に相当するメインモニターにはイデシスシステム「IDE=Image Directive Encode System=画像管理型元号化装置」が搭載されており、精密照準などにある種の定位パターーンが現れるなど、外観上も独特の革新的を見せていた。他にも、バルカン砲や各種センサー設置も高密度で可能であったため、基本的なシルエットはZ系の種体でも認識されている。ただし、各デバイスはかなりのコスト面を招いたようだ。

百式のボディユニットは、リック・ディアスの基礎構造を踏襲している。

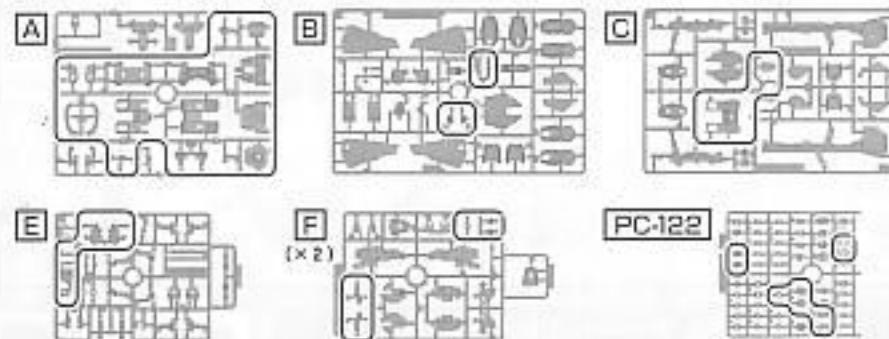
変更点は、ジェネレーターの小型化とコクピットの配置および、駆動翼面の構成程度である。

外見上、百式とリック・ディアスの胸部構造は類似している。ただし、その内部構造を比較して見れば、根本的な構造の違いがある。また、見た目の印象と違い、百式とリック・ディアスとの重量差はほとんど無い。これは、基本的に公認MSの構造を持つリック・ディアスと、ムーバブル・フレーム構造を持つ百式の本質的な設計コンセプトの違いによる。ムーバブル・フレームは、基本的に武装と装甲、そしてプロペラント以外にMSに必要な機器の全てを内蔵している。つまり百式は、リック・ディアスが、装甲の内側に詰め込んでいる駆動構造のほとんどを、フレーム内に圧縮して内蔵しているのである。このことは、全体そのもののレスポンスや消費エネルギーが改善されることを意味する。なぜなら、それらの部位に発生する慣性モーメントが（車を暴むかのように）極小化されるからである。実際、コクピットユニットがボディへ移動したことにより、メインジェネレーターの負担率は減少しているのだが、その出力はほとんど変わらず、そればかりか、百式は単槽でメガ・バズーカ・ランチャーをドライブ可能な余力さえ持つのである。この余力が機体のパワーウェイトレシオを向上させ、百式を高性能な高速攻撃型MSとして成立させているのである。



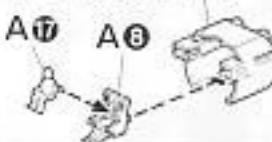
1 BODY UNIT

・組立 1 で使用するパーツ



1 [胸部の組立]

(1) BODY UNIT A①



1

(2)



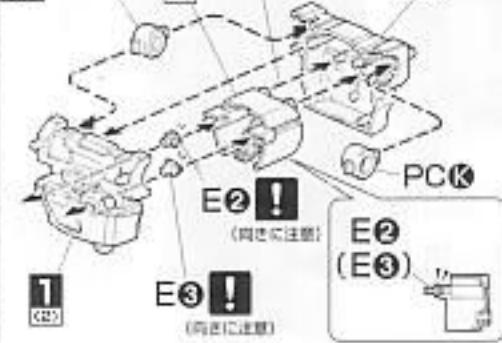
1

(3)



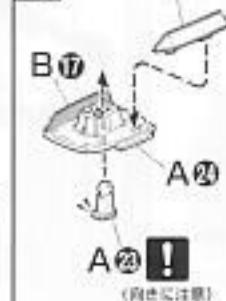
1

(4)



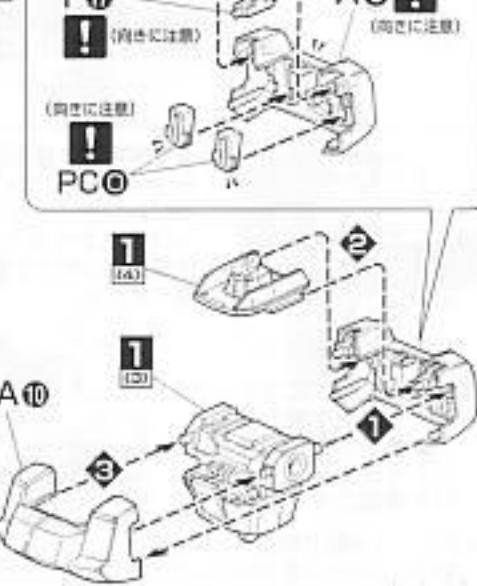
1

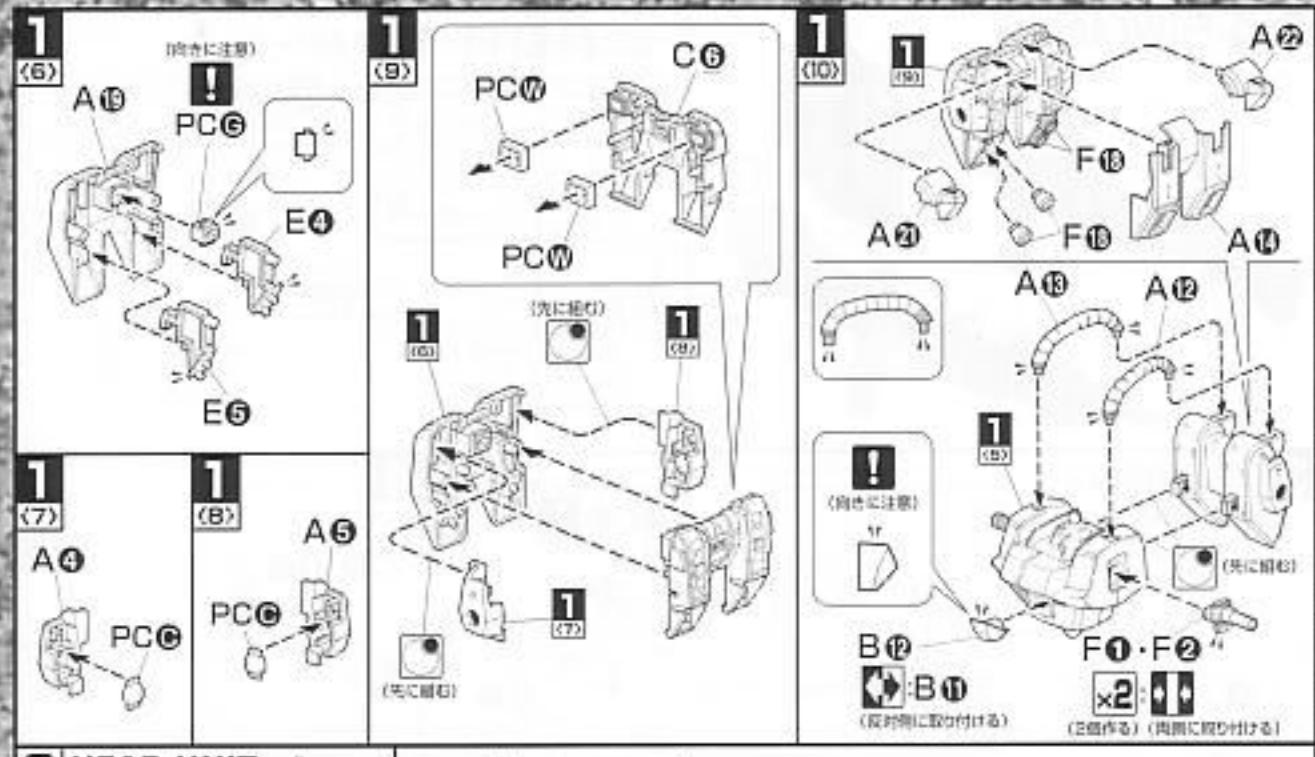
(5)



1

(6)

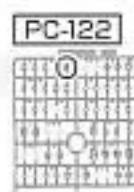
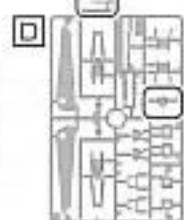
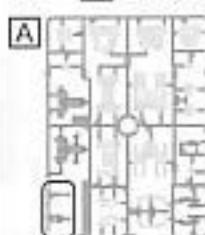




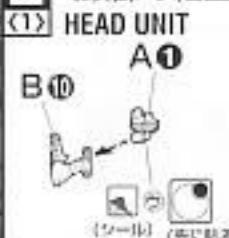
2 HEAD UNIT



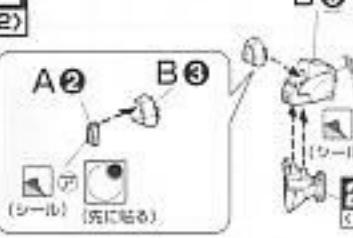
・組立 2 で使用するパーツ



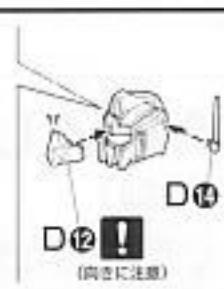
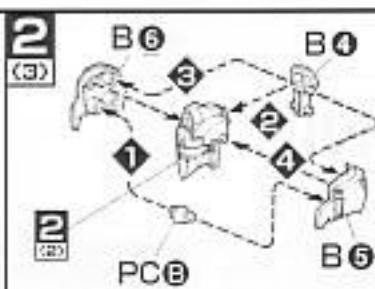
2 (頭部の組立)



2 (2)



2 (3)



WEAPONS

[武器]

MSN-00100は、メガ・バズーカ・ランチャーなど、研究、開発中の各種武器の実用試験にも頻繁に動員された。それは、この機体の信頼性が高かったことと、内部構造へのアクセスが容易だったからだと言うことができるだろう。逆に、通常時の兵器は非常にベーシックなものとなっている。

ビーム・サーベル (BEAM SABER)

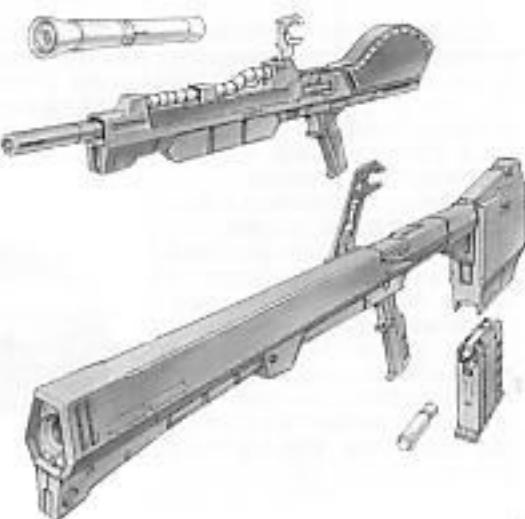
リック・ディアスなどに採用されたものの同特品。ただし、塗装箱は本体と同じエマルジョンのものが使用されている。

ビーム・ライフル (BEAM RIFLE)

百式の専用武装。ただし、ベースとなった武装は、一年戦争当時、一部の部隊に配備された武装。そのアビオニクスを流用し、出力強化などが施されたもので、開発当初の数倍の性能を持つ。

クレイ・バズーカ (CLAY-BAZOOKA)

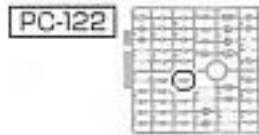
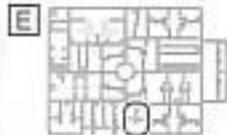
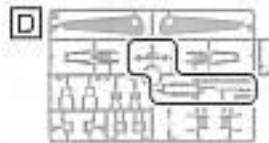
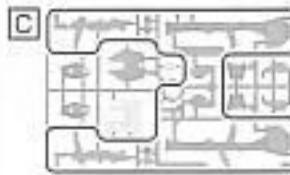
本来クレイ・バズーカとは、敵機の爆撃よりも内部破壊による爆傷不完全、すなわち“足手まい”とする起爆榴弾などを射出する武装である。エッコーの初期の戦術ではその種の弾頭が多く用されていたため、この武装もそう呼ばれているが、実際には他の弾頭も通用可能である。



345 WEAPONS

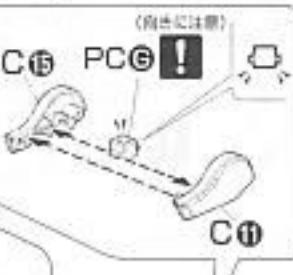
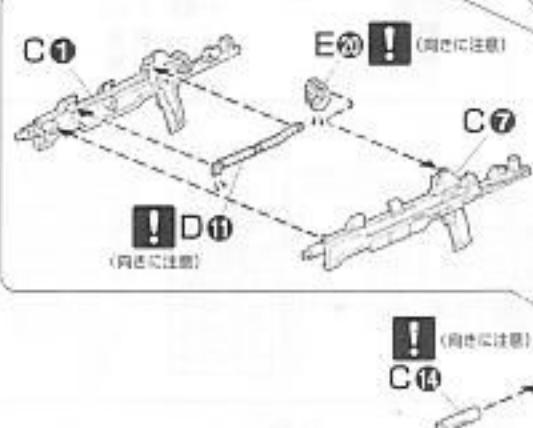


・組立③・④・⑤で使用するパーツ

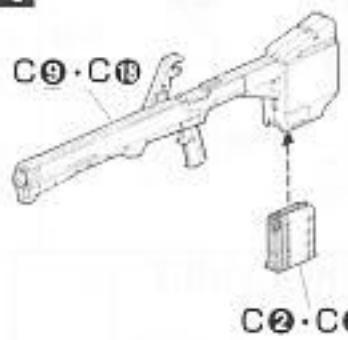


3 武器の組立

WEAPONS



4



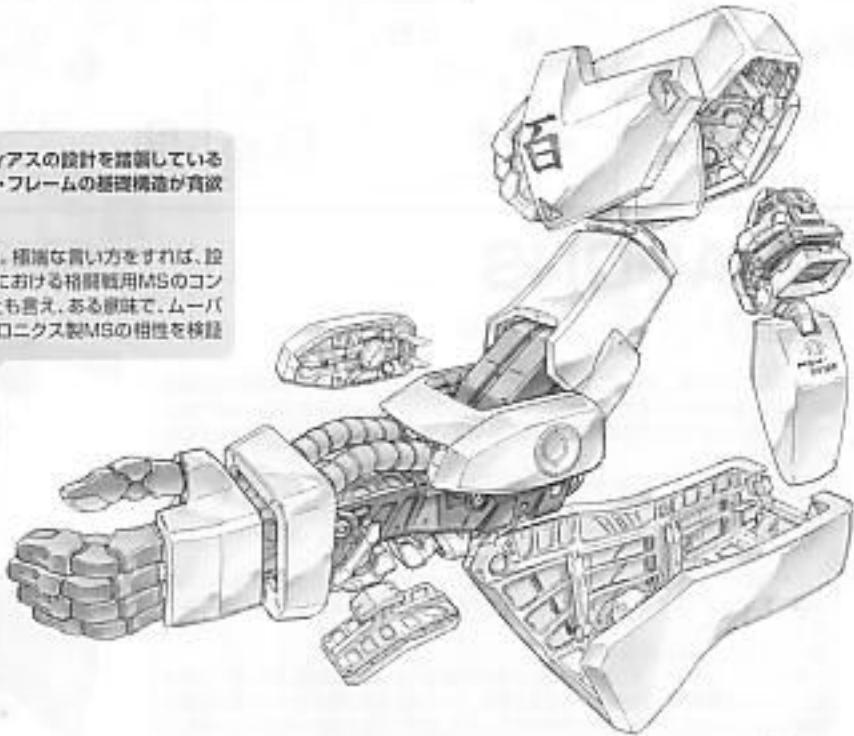
5



ARM UNIT (腕部)

百式の腕部モジュールは、基本的にリック・ディアスの設計を踏襲しているが、内部構造にはMK-IIから開拓されたムーバブル・フレームの複雑構造が貢献に取り入れられている。

百式は事実上、リック・ディアスの系に当たる。極端な言い方をすれば、設計母体となったリック・ディアス以後の開発計画における格闘戦用MSのコンセプトに、ガンダムMK-IIの構造を導入した機体とも言え、ある意味で、ムーバブル・フレームとエウゴ／アナハイム・エレクトロニクス製MSの相性を検証する機体としての役割も負わされたことになる。これは、Zプロジェクトが進展している最中にあって多分にリスクの一例面を持っていたが、本来のTMSとしての欠陥が露呈した事もあり、ワンオフの試験機、あるいは実験機として、ビーキーが機体となつたことが、逆にこの機体のボテンシャルを押し上げたということもできるのである。実際、ムーバブル・フレームを導入した四肢は信頼性も堅健性も高く、メガ・バズーカ・ランチャーのドライブも可能とする。これは、メインショットレーターの極端な出力向上があつたわけではなく、ムーバブル・フレームの採用によって機体運動に要するエネルギー消費の効率化が可能となつたためであるとされている。

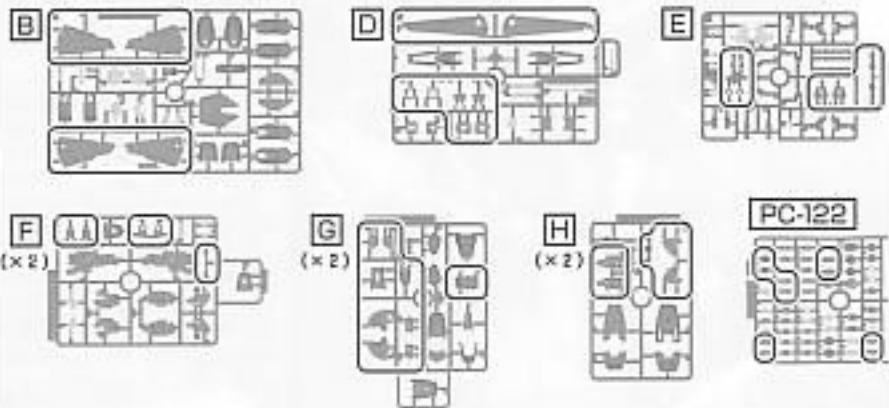


6 7 8 9 10

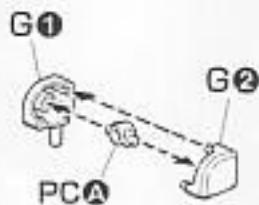
ARM UNIT



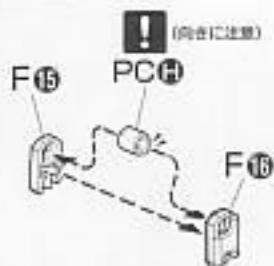
・組立 6・7・8・9・10 で使用するパーツ



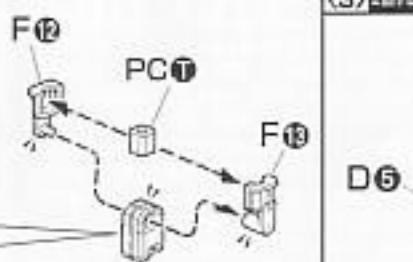
6 $\times 2$ [腕部の組立]
(1) 28556 ARM UNIT



6 $\times 2$
(2) 28573



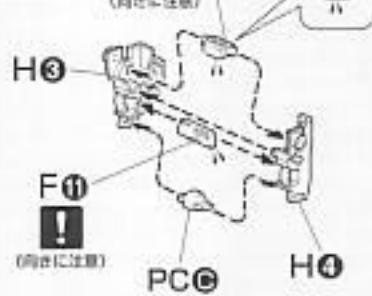
6 $\times 2$
(3) 28575



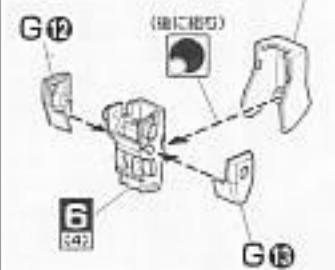
6 $\times 2$
(4) 28576



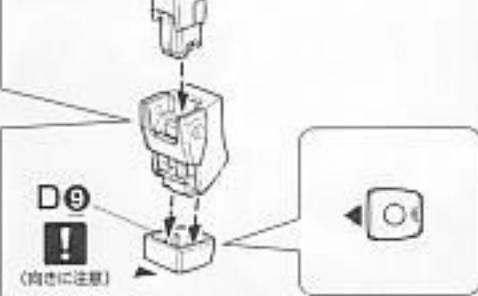
6 $\times 2$
(4) 28556



6 $\times 2$
(5) 28575



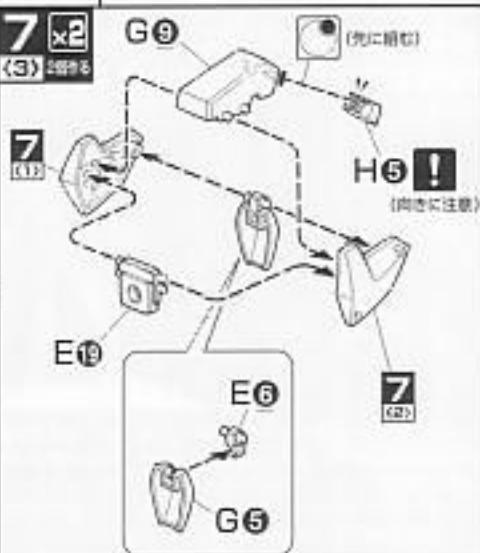
6 $\times 1$
(6) 28576



7 $\times 2$
(1) 28556



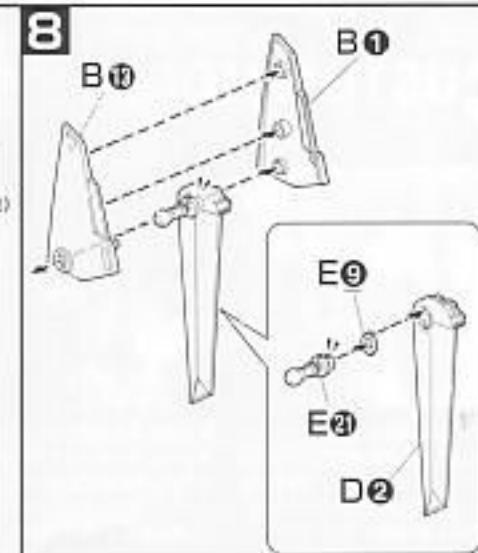
7 $\times 2$
(3) 28575



7 $\times 2$
(2) 28556



8



BRING DOWN COMMAND



RETREAT TO ARGAMA

「落ちろ!!」艦隊への復讐命令を聞かずにはまつ込んだエマのリック・ディアスは、MS形態に変形したメッサーらに脇と右腕を斬り落とされました。シロッコの関心は、すでにエマ機の接戦に駆けつけたカミーユのNK-IIに移っていたが、その意外な手強さにシロッコは舌を卷いていた。「ええいっ、マイナーチェンジのくせにっ!!」。翌日の接戦でメッサーらのパイロットから異質なブレッシャーを感じていたクワトロは、草若もメッサーらに追いつきながらエマを制止する。「エマ中尉、カミーユに構うな。後退しろ!!」「しかし?」「アガマへ後退だ!」エマにアガマへの帰投を命じたクワトロは、カミーユと戦闘を繰り広げるシロッコに、これまでに出会ったニュータイプとも異なるものを感じていた。「……明らかに違う。あれはアムロでもない。違うタイプだ!!」クワトロは吐き出すように呟いていた。



U.C.0087年5月11日。エゥーゴ艦隊はジャブロー基地攻撃のため、大規模な地球降下作戦を実行した。バリュートシステムを搭載した百式のMSが、アーガマはじめとするエゥーゴの艦艇から出撃し、エマのリック・ディアスをキーとして大気圏突入のための鋼索を組みはじめた。と、そこに話の可否MA、メッサーらが再び出現した。「後方のシブヤンとスルガ!!」「やられた!? ティターンズかっ!!」エマ機が艦隊を離れ、艦隊の後方へ向かう。「落ちろ、カントボ」メッサーらに座乗するシロッコはそろつぶやくや、エゥーゴの艦艇やMSをなぶりのように撃ち落とし続ける。艦隊の先導役アボリーとロベルトに任せ、クワトロは百式をアガマに接触させる。「頭をアボリーとロベルトのリック・ディアス隊に取らせた。エマ機支援に行く」降下作戦を指揮するブライトは、いら立ちを現しもせずクワトロに指示を出す。「了解。正体不明のMAを叩き落とせ!!」「了解」ブライトの命令に応えつつもクワトロは苦悶だった。「……と、おっしゃるが、ただの敵とは思えん!!」百式を艦隊の後方へと飛ばせながら、クワトロは思わず呻いていた。



BALLUTE EXPANDED

「大気圏突入だ!! エマ、いいかげんにしろ!!」なおもジャブローへの降下にこだわるエマにクワトロは思わず躊躇していた。「大気圏突入、時間です!!」エマ機、起動する。アガマ降下!! エマ機を回収するため、ブライトの指示でアガマは大気上層のギリギリまで高度を下げる。「ブライトキャプテンの命令に従え!!」百式に説を組まれたエマのリック・ディアスは、引きずられるようにしてアガマに擁護していった。「大尉、ご無事で!!」「アガマを護ってくれ」エマ機をアガマに送り届けたクワトロは、再び大気圏突入のコースへと戻っていた。敵味方が交撃しながら、それそれがバリュートを展開させ、地理を詮(うすぎぬ)のように選ぶ。厚さ300kmに及ぶ大気の壁に突っ込んでいった。パシュウッ。ハイザックが放ったビームを避けた瞬間、百式はバリュートを展開させ、炸向(さきむか)けのまま力なく機体を重力に任せていた。「エエイッ」さっきの無駄足がなければ、あと数分ほどはノノフスキーピースがなくとも通過すらろくにできない。クワトロは静かに灼熱の剣(とき)が過ぎるのを待つしかなかった……。

CUSTOM MODEL キミだけのカスタムモデルに仕上げよう!!

©創造エージェンシー・サンライズ



百式の金色部分は、最初にシルバーをスプレー等で塗った上に、クリヤーイエロー、クリヤーオレンジ等を重ねていこう。暗影をグラデーションにできるとより貴重に仕上がるぞ!



緊強感ある大気圏突入シーンの「ジャブロー降下作戦」。このシーンには左 MG リック・ディアス 價格 3,675円(税5%)エゥーゴ、ティターンズと共に様々なMSが登場する。百式と同様にバリュート中央 MG ハイザック 價格 3,150円(税5%)システムを装備可能なMSも、MGで多岐ラインナップされている。バリュート 右 MG リック・ディアス(クワトロ/バーナカラ) 價格 3,780円(税5%)システムを流用して、君の手でジャブロー降下作戦を再現してみるのも面白いぞ!! ※上記のプラモデルは別売りです。

*写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。 *価格はメーカー希望小売価格です。

PAINTING

*よりリアルに仕上げたいからは、下の基本色をご採用ください。
*塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダム
カラーをお使いください。

本体等ゴールド部の塗装色。
シルバー(100%)の上に重ねて
クリヤーエイロー(75%) +
クリヤーオレンジ(25%)

フレーム、武器等グレー部の塗装色。
ブラック(50%) +
ニュートラルグレー(40%) +
レッド(10%)
※またはパンダカラーファントムグレー

脚等ブルー部の塗装色。
ブルー(80%) +
ホーピーブルー(10%)

サブカメラ等グリーン部
の塗装色。
変光グリーン(100%)

足等レッド部の塗装色。
レッド(95%) +
ブラック(5%)

メインカメラ ブラック部
の塗装色。
ブラック(100%)

バリュートシステム

外筒等グレー部の塗装色。
ミディアムブルー(80%) +
レッド(10%) +
ブラック(10%) +
ホワイト(少量)

バルーン等グレー部の塗装色。
ホワイト(100%)
ミディアムブルー(少量)

パイプ等グレー部の塗装色。
ミディアムブルー(80%) +
ホワイト(30%) +
レッド(10%) +
ブラック(少量)

バーニア内部等レッド部
の塗装色。
レッド(80%) +
ブラック(5%)
イエロー(5%)

■ワンポイントステップ

スミ入れしてみよう!!

ガンダムマーカー／スミ
入れ用（別売り）などを
使用して、ミジン所に線
を引くことで、模型が引き
締まります。



REAR VIEW



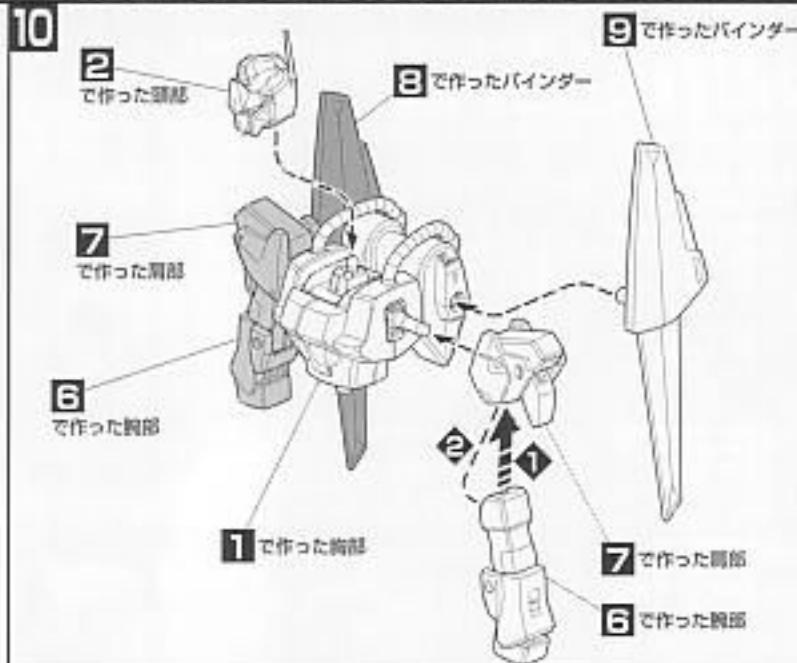
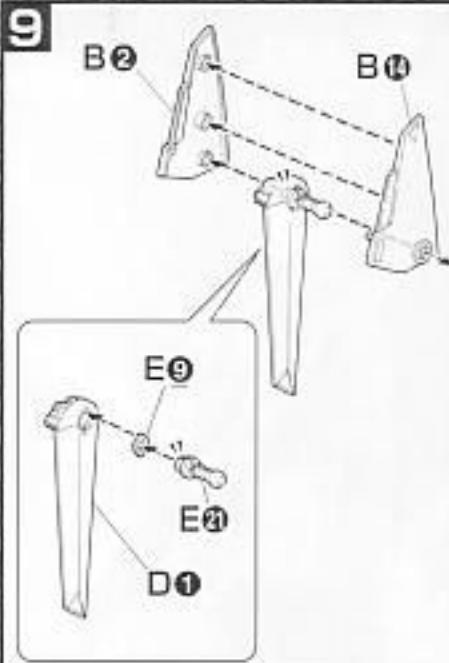
▲ 背部バリュートパック内部には、収納状態のバルーンを精密に再現。各パーツは、装甲の裏面までメカニカルなディテールを表現し、リアリティーを演出。



▲ バリュートシステム非装備の百式も
再现。パックパックにはクレイ・バズーカ、
ビーム・ライフルのマウントが可能。

▲ クワトロ大尉のフィギュア
付き。コクピットハッチの
開閉ギミックも再现。

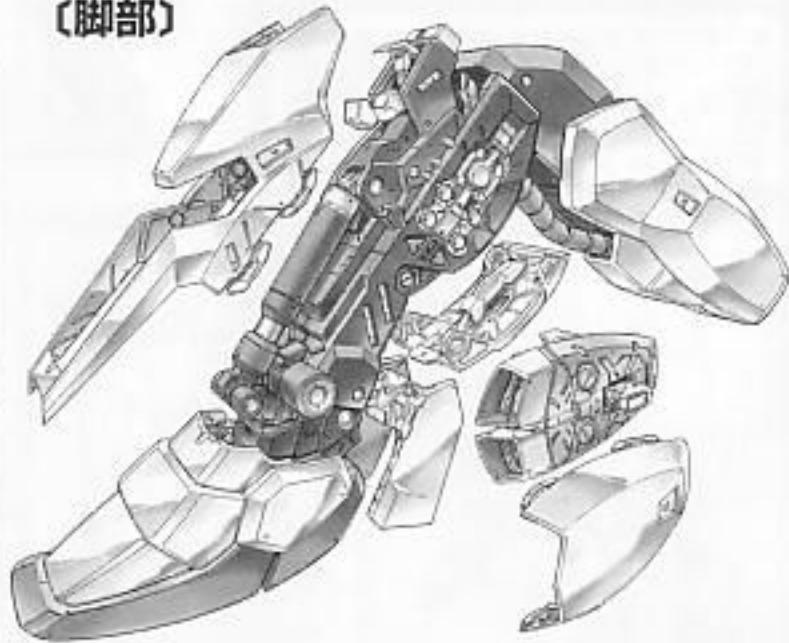
▲ マガジン着脱式のクレイ・バズーカをはじめ各武装を
セット。ビーム・ライフルはエネルギーバック着脱も可能。



WAIST UNIT & LEG UNIT (腰部) (脚部)

百式の脚部は、既存のどのMSとも一線を画す画期的な構造を持っている。すなわち、MSの最終装甲の形状の再検証と、可変MSの開発に不可欠な“可動脚の提出”という問題対策の摸索でもあった。

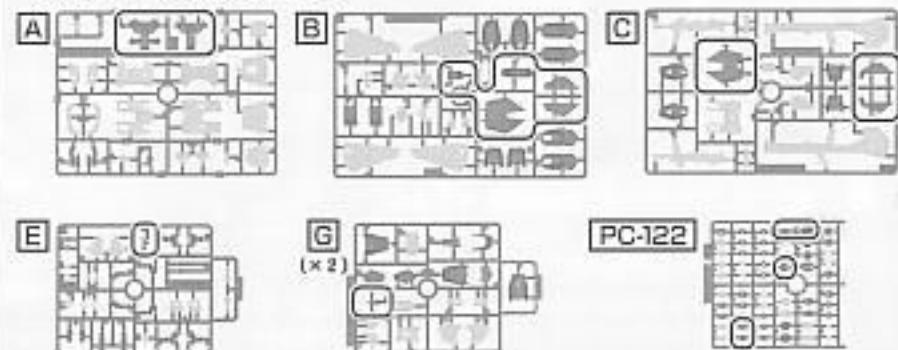
百式の脚部は、意図的に想えるほど内部フレームが露している。これは、可変MSというコンセプトを放棄したための“欠損”ではなく、むしろ、運動性の向上と機体軽量化の徹底を指標とし、さらに、後の可変MS発展のために基礎研究を行ったための構造なのである。MSは、一年戦争の期間中に“人型化”をほぼ達成した。ムーバブル・フレームは、その構想をさらに推し進めたものだ。しかし、MSは兵器であるが故に装甲を必要とし、装甲がMSの擬人化や運動性向上のひとつの中傷でもあった。百式は、フレームから最終装甲を“浮かせる”ことで、四肢の運動性を飛躍的に向上させることに成功した。無説、これは本來MK-IIによって実現された機能だが、MK-IIの装甲移動は基本的にパッシブ(受動的)であり、全体の可動に応じて装甲を移動させるものであった。百式は逆に、自機の可動や被弾状況などに応じてアクティブ(能動的)に移動するのである。これが、実戦投入によって機動ソフトの開発にも貢献し、可変MSの形状変化レスポンスを大幅に引き上げることを可能とし、可変MSの巨大な機体を、ほぼ“瞬”で変形させることを可能としたのである。

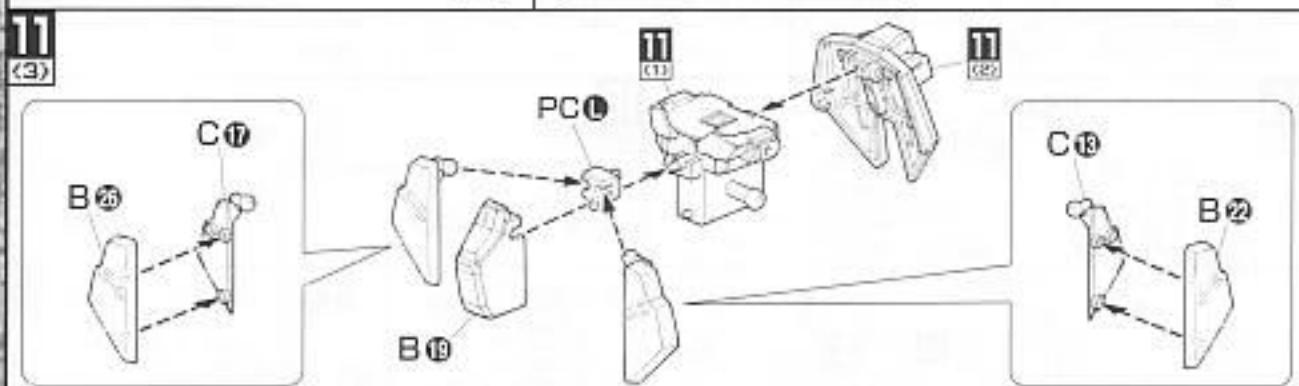
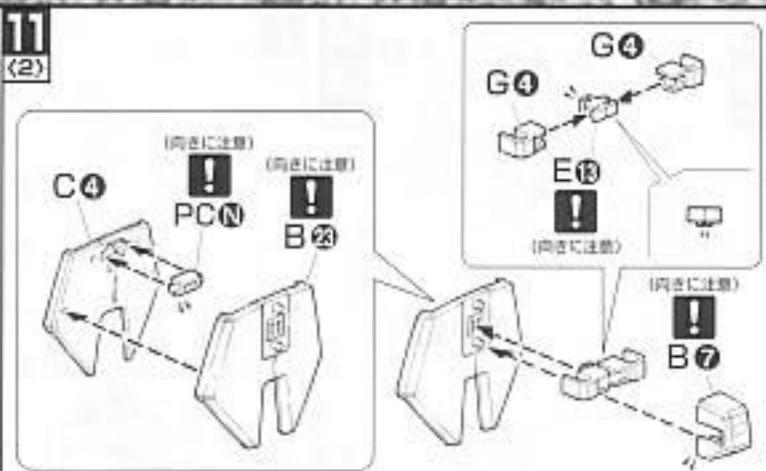
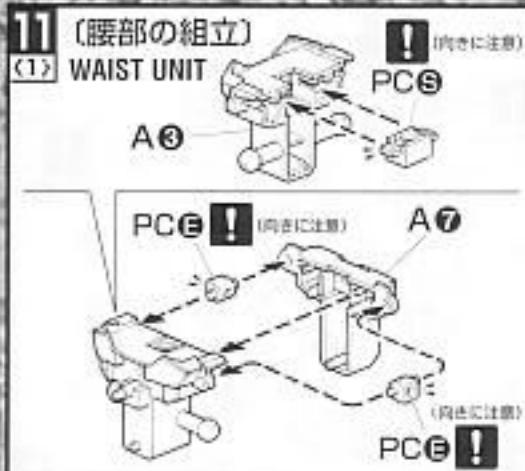


11 WAIST UNIT



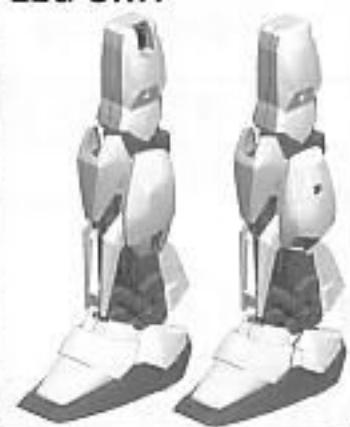
・組立 11 で使用するパーツ





12 13 14 15 16 17

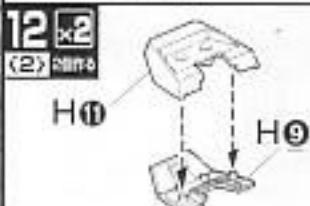
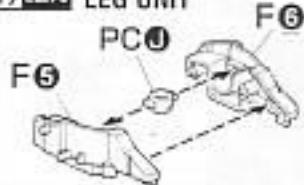
LEG UNIT



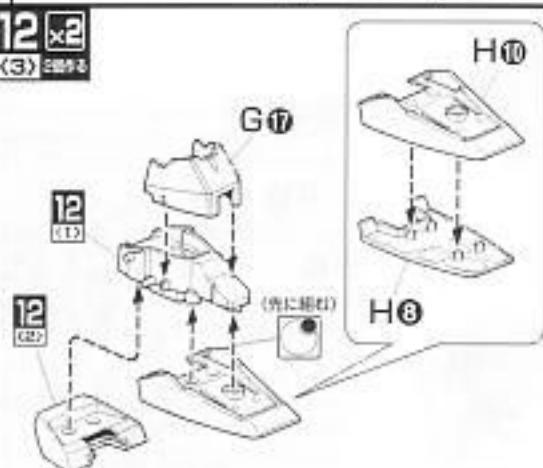
・組立 12・13・14・15・16・17 で使用する部品



12 x2 [脚部の組立]
(1) 201a LEG UNIT



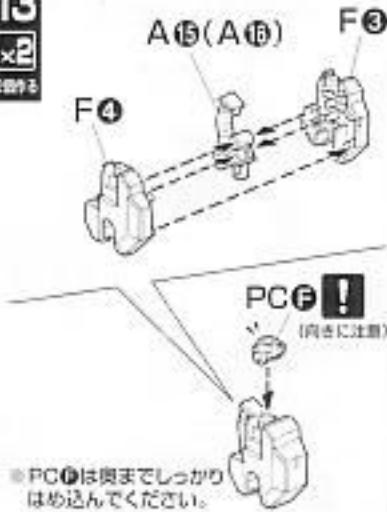
12 x2
(3) 201c



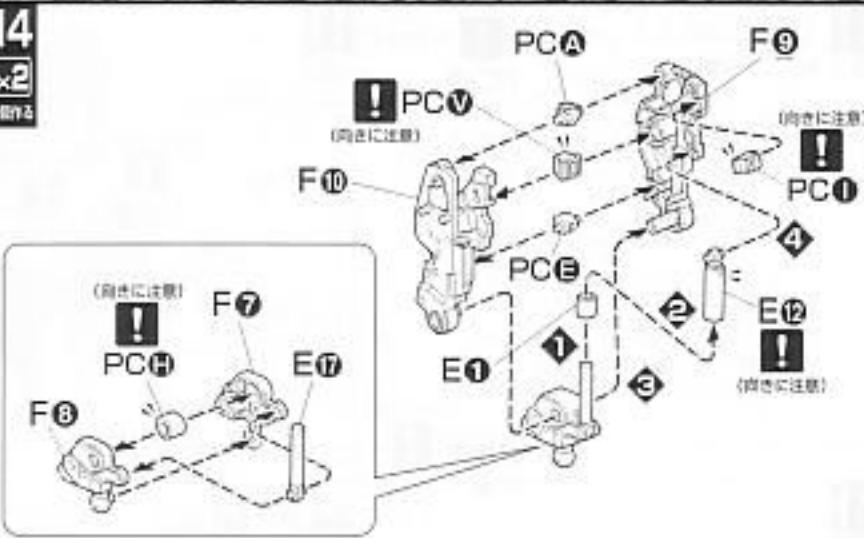
12 x2
(4) 201d



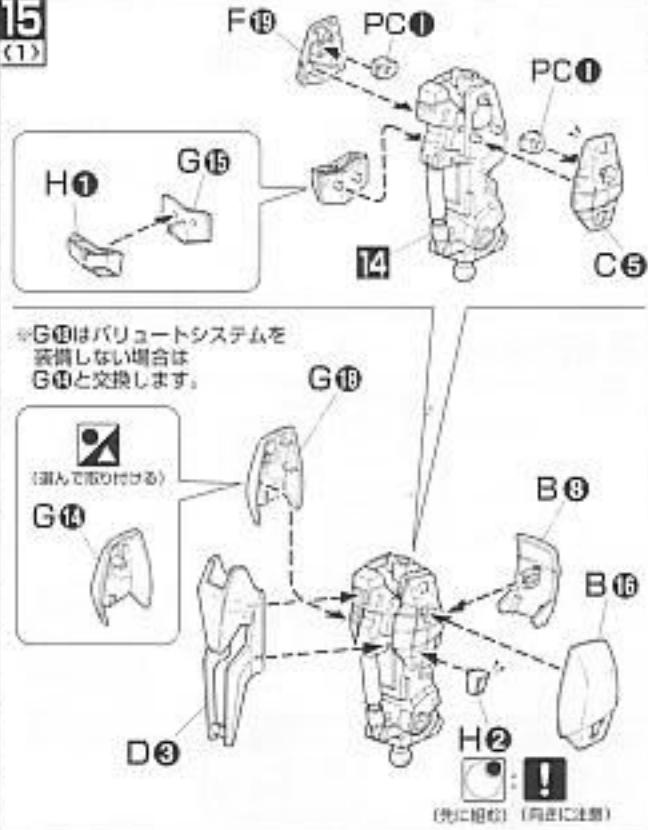
13



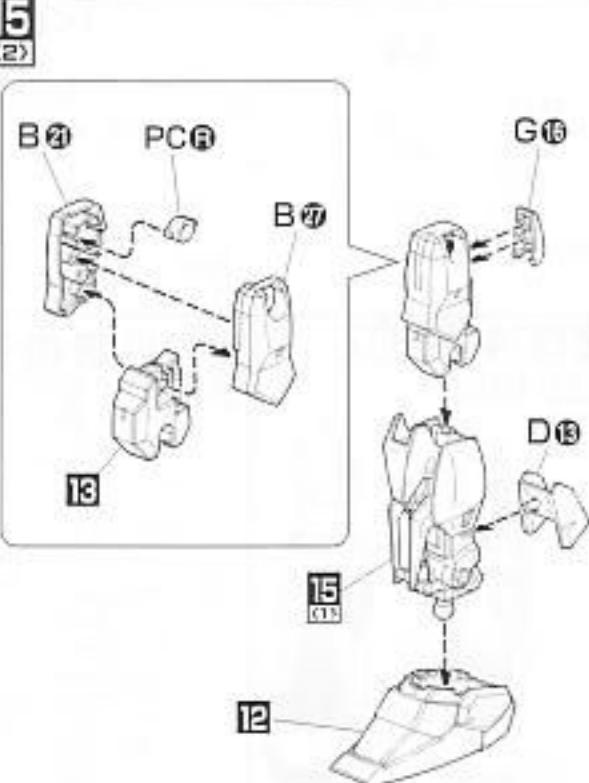
14



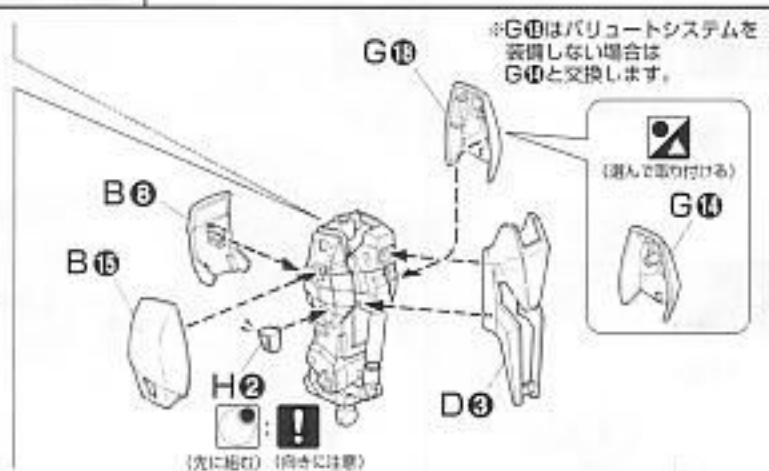
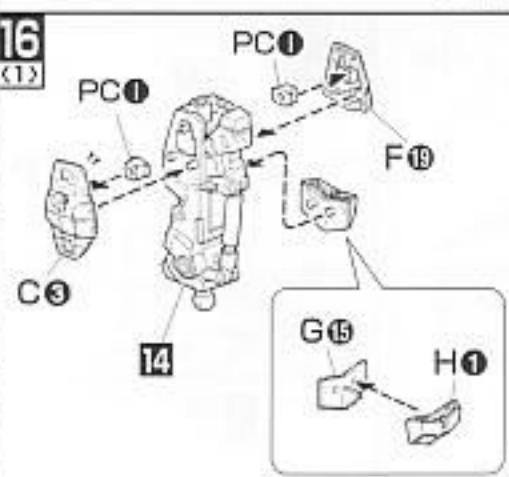
15 (1)



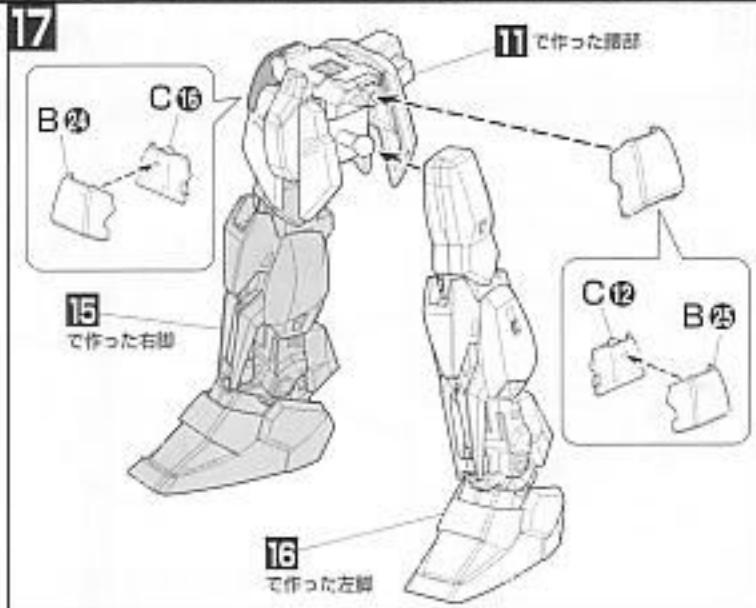
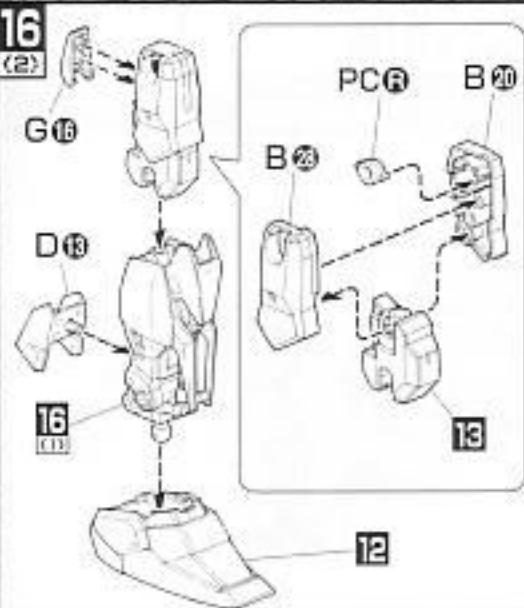
15 (2)



16 (1)

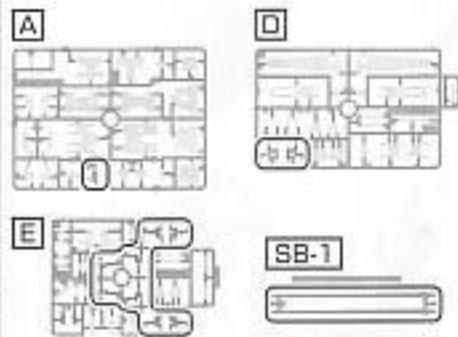


[部品表] [基本説明] (胸 部) 1 [頭 部] 2 [武 器] 3~5 [腕 部] 6~10 [腰 部] 11 [脚 部] 12~17 [完 成] 18 [ワード・ガス] 19~22 [シール] PARTS LIST HOW TO BODY UNIT HEAD UNIT WEAPONS ARM UNIT WAIST UNIT LEG UNIT FINAL ASSEMBLE BALLUTE SYSTEM SEAL

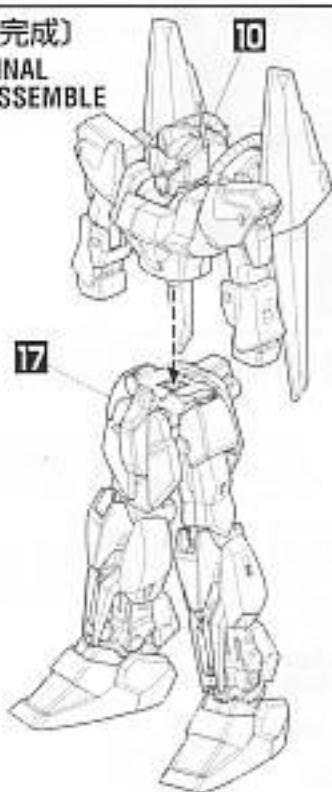


18 FINAL ASSEMBLE

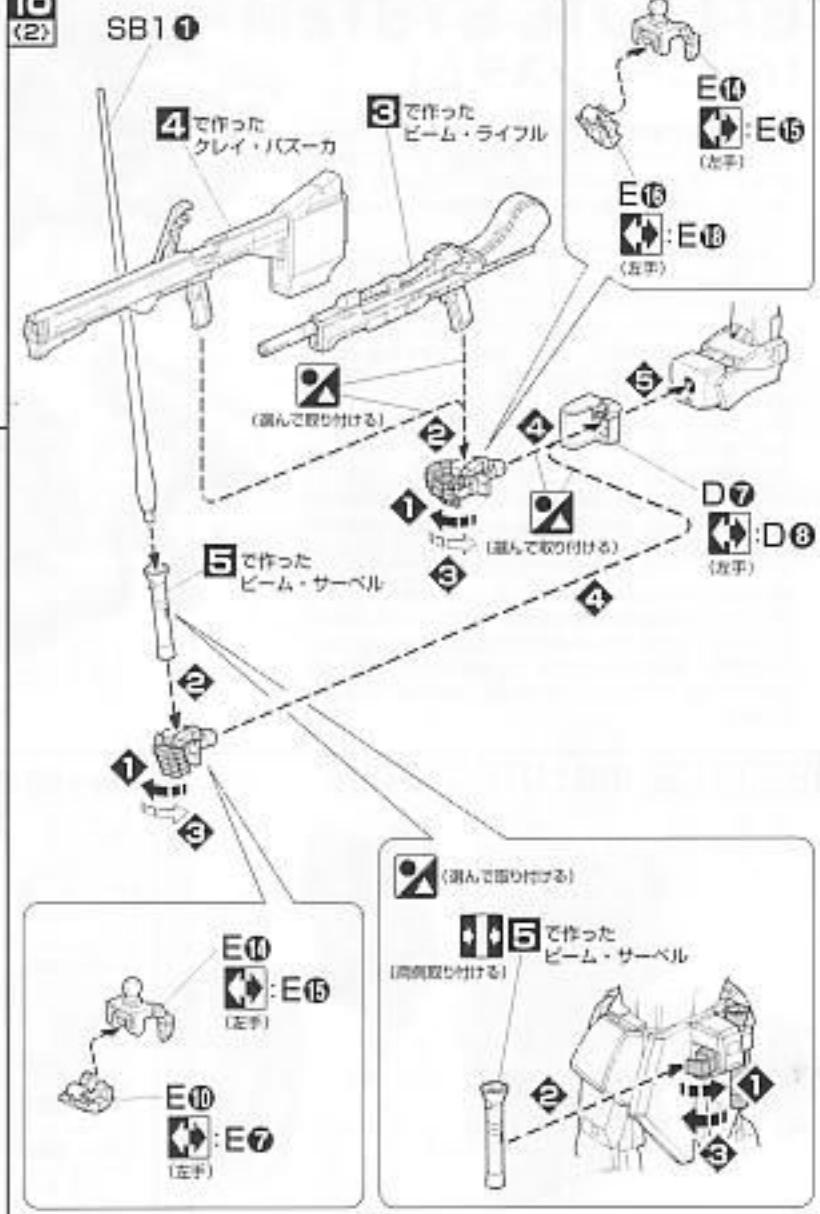
・組立 18 で使用するパーツ



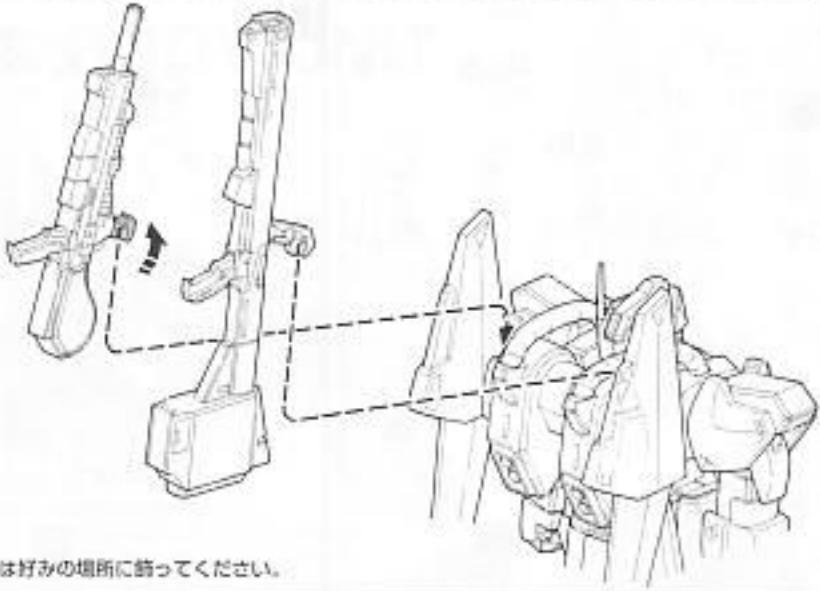
18 (完成) FINAL ASSEMBLE



18 (2)



18 (3)

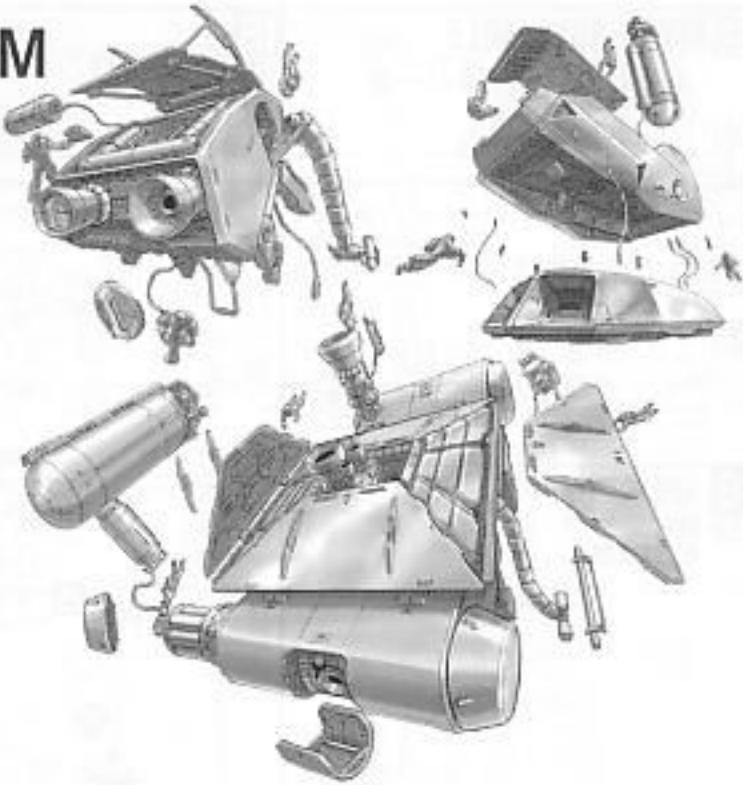


④は好みの場所に貼ってください。

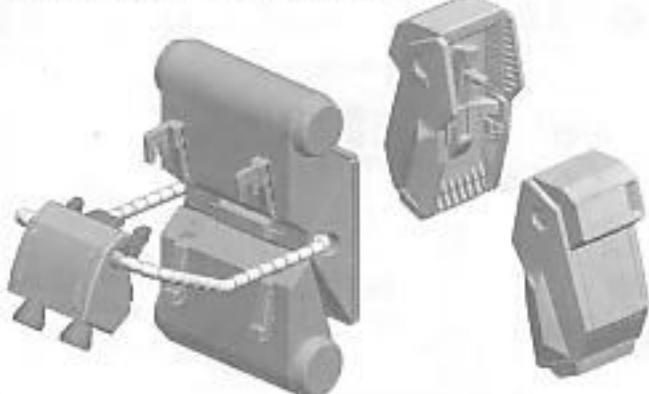
BALLUTE SYSTEM [バリュートシステム]

MS用の大気圧突入装置。主な特徴は、HLVなどと比べ圧倒的にローコストなことであり、大気上層において活動する場合など、携行が義務づけられているケースもある。任務によっては、いわゆる「救命ポート」的に認識されてもいる。

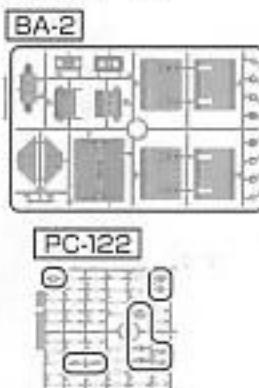
耐熱・難燃性繊維でできたポウル状のバルーンと、パラシュートおよび爆破バーニアスラスター、地上移動用ホバーなどを含むMS用の特殊装備で、これらをまとめて「バリュートシステム」とも呼ばれ、規定高度より降下すると自動的に展開するセンサー類も装備している。大気圧の上層では、ポウルの底部を進行方向に向けて、唯一露出しているロケットノズルから燃焼ガスを噴射し、ポウルごと機体全体を覆うように包み込む。このガス自体かなりの高温ではあるが、摩擦熱よりもはるかに低く、機体にダメージを与えることはない。バルーン中央から噴射されたガスが空力加熱でプラズマ化した大気とバルーンの表面を絶縁し、更にバルーンに封入されているガスによって機体は熱から保護される。それを利用して軌道変更や大気圧突入を行うのである。ちなみに「バリュート」とは、もともとバルーン(風船)とパラシュートを組み合わせたものを指す造語(Balloon+Parachute=BALLUTE)で、旧世纪中に落下式爆撃弾の制動装置として实用化された。このエアパッケタイフのエアブレーキシステムは、機械的な制御装置よりも確実かつ簡易であったため、後に惑星探査機の保護装置などのようなバリエーションを生み出しながら進化を遂げたのである。

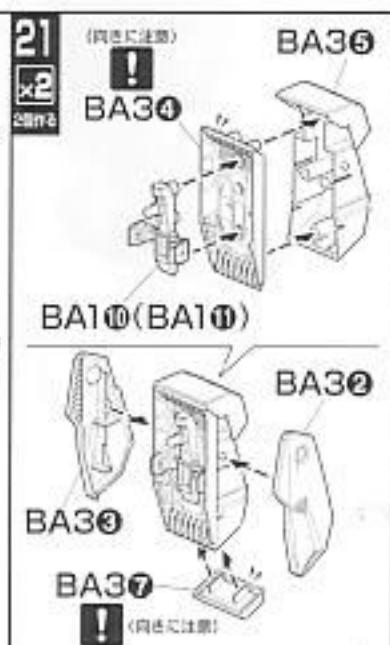
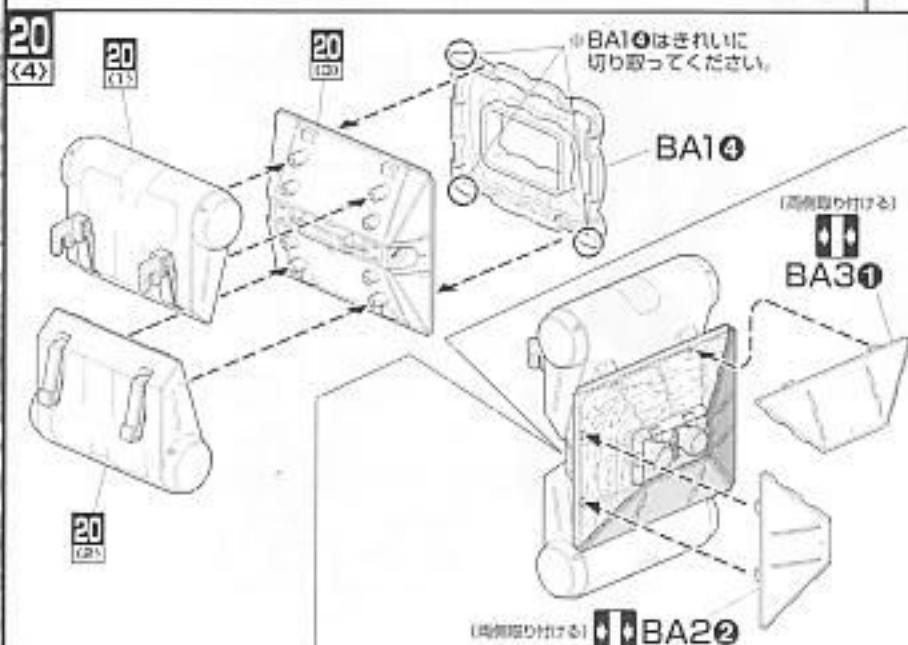
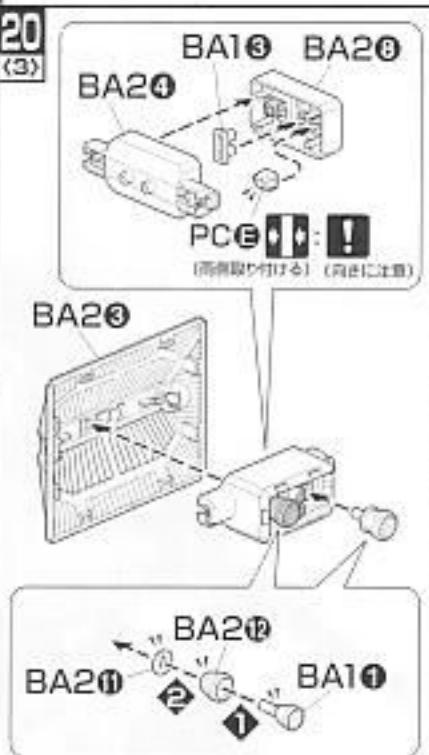
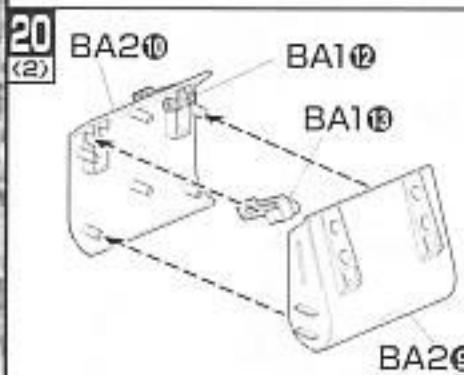
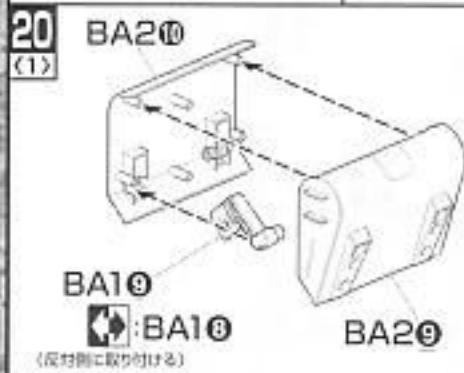
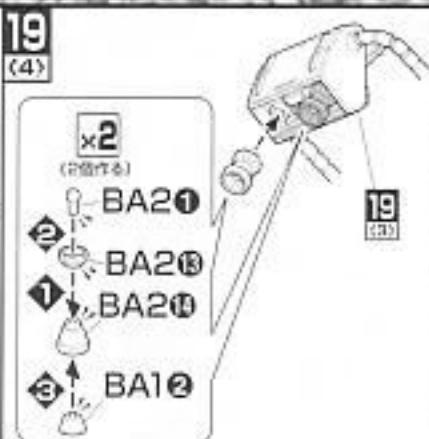
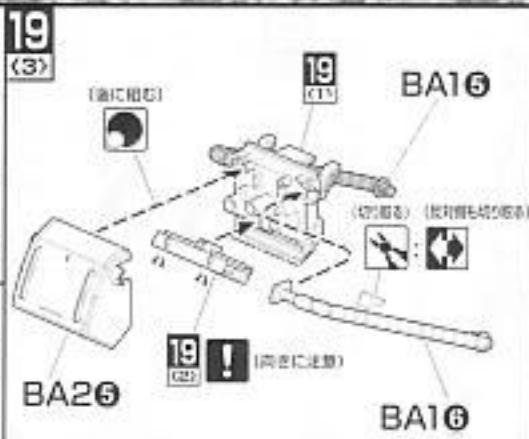


19 20 21 22 BALLUTE SYSTEM



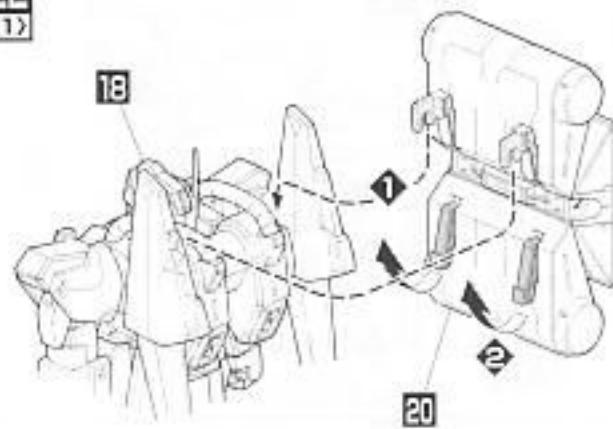
・組立 19・20・21・22 で使用するパーツ



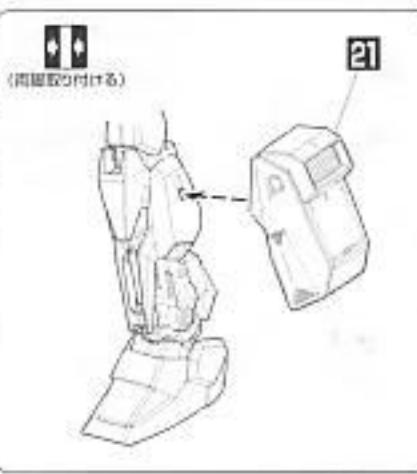
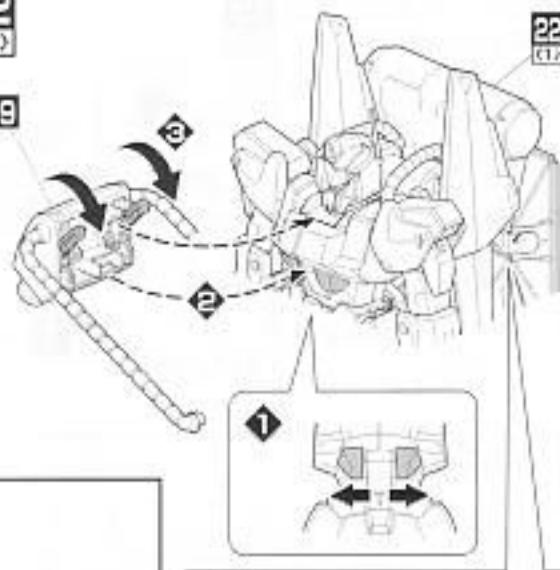


(シール) [002-005-001] 19~22 (完 成) FINAL ASSEMBLY
SEAL BALLUTE SYSTEM

22
(1)



22
(2)



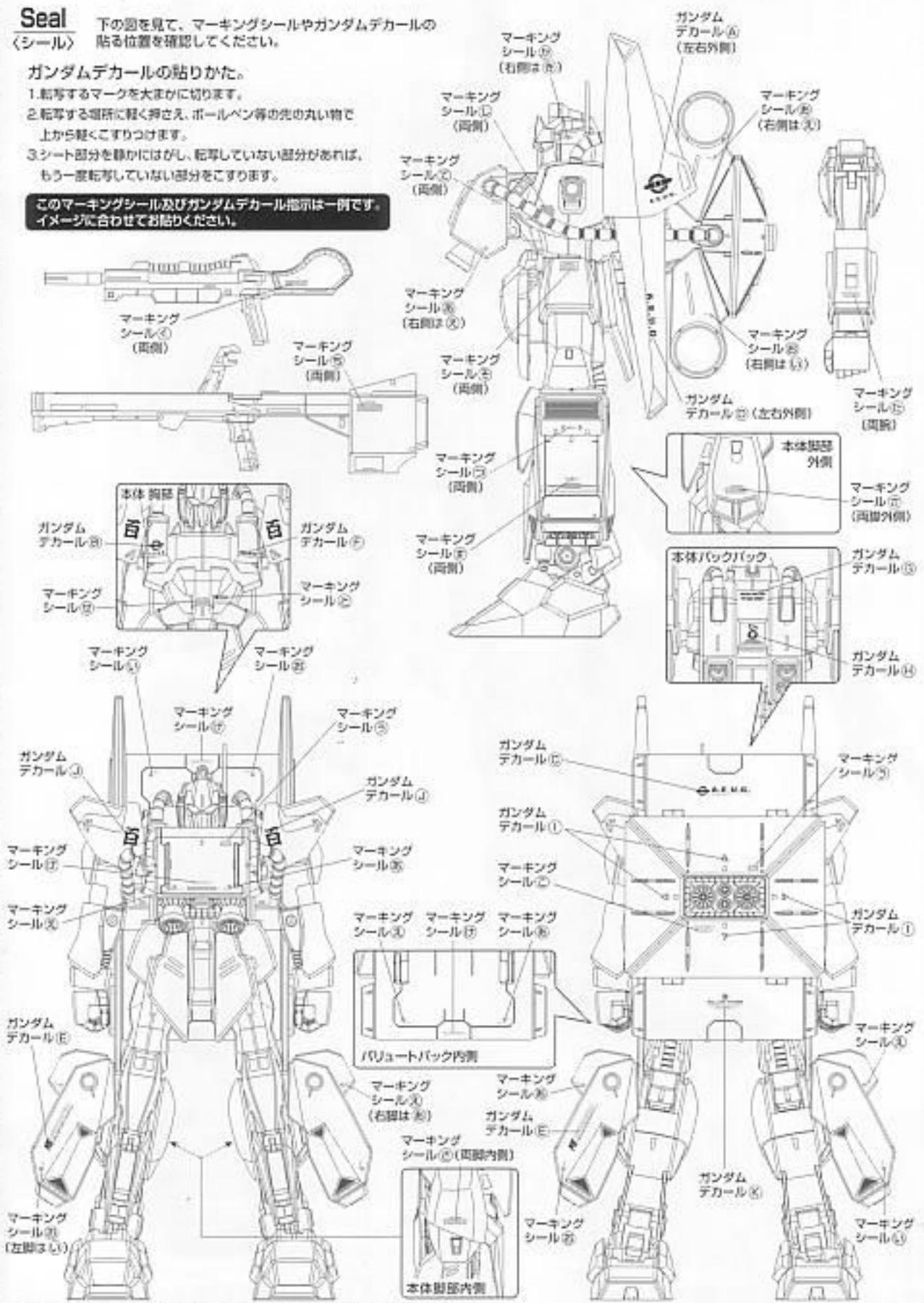
Seal

下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

ガンダムデカールの貼りかた。

1. 貼るマークを大きめに切ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を跡かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカールは一例です。
イメージに合わせてお貼りください。



*余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。

[部品表] [基本説明] [胸 部] 1 [頭 部] 2 [武 器] 3 ~ 5 [腕 部] 6 ~ 10 [腰 部] 11 [脚 部] 12 ~ 17 [完 成] 18 [(01-ヤマハ)] 19 ~ 22 [シール] PARTS LIST HOW TO BODY UNIT HEAD UNIT WEAPONS ARM UNIT WAIST UNIT LEG UNIT FINAL ASSEMBLY BALLUTE SYSTEM SEAL



Scanned by Dalong.net



反地球連邦政府組織（エウーゴ）
攻撃型モビルスーツ
MSN-00100「百式+バリュートシステム」
1/100スケール
マスターグレードモデル

MSN-00100 HYAKU-SHIKI
+BALLUTE SYSTEM
A.E.U.G. ATTACK USE PROTOTYPE MOBILE SUIT